

ハビト文字

Rizuntr Fraarituir

ハビト文字

鬼月 くみ

Kumi Togetsu

2020



mikotoha.net

1. ハビト文字について

ハビト文字 (Rizuntr) はフラーリット語¹を表記するために用いられる。元来はかぎ爪によって樹皮などに彫られることが多かったため、**爪文字** (Onychoglyph) とも呼ばれる。欧文と同様に左から右に向かって横書きされる。分類上は音素文字 (アルファベット) の一種であり、原則としてそのままラテン文字に置換可能となっている。ただし、いくつかの合字が存在するため注意が必要である。

ハビト文字には大きく分けてふたつの書体が存在する。ひとつは**ヒェールク体** (Hjeeruki²) と呼ばれるスタイルで、日本語の明朝体、欧文のセリフ体のような書体 (図1) である。もうひとつは**ホワーフル体** (Hwaafri³) と呼ばれ、こちらはゴシック体、サンセリフ体に相当する。(図2)



図1: ヒェールク体

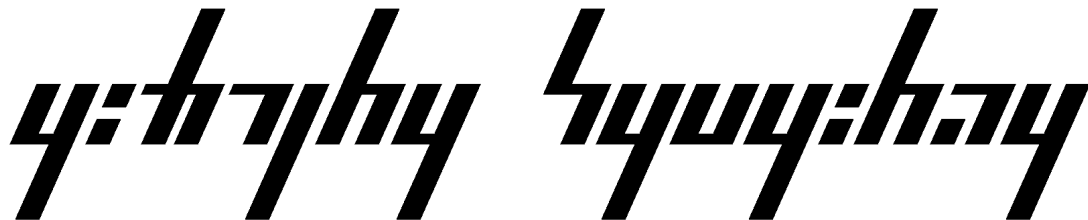


図2: ホワーフル体

ハビト文字に大文字・小文字の区別は無い。また、子音の字母は行の上下いずれかに必ず飛び出し、母音の字母は行の中段に必ず収めて書かれるという特徴がある。フラーリット語にはイレギュラーな発音がほとんど存在しないため、表記された通りに発音すればよい。

以下では標準的なタイプフェイスとされるヒェールク体を用いる。


¹ 鳥人語。「フラーリトゥイル」または「ハビトコトバ」とも呼ばれる。


² hjeeruk とは「ワシ」の意。


³ hwaafri とは「フクロウ」の意。


2. 子音


上段は字母の名称。中段には対応するラテン文字とIPA⁴を表記した。


 Fraar フラール
f [f]
ファ行音。


 Tuuf トーフ
t [t]
タ行音。


 Zuut ツート
z [ts]
ツァ行⁶音。


 Laa Fiiikrit ラー・フィークリット⁵
l [l]
L のラ行音。外来語のみ

 Riiz リーツ
r [r]
巻き舌のラ行音。

 Naank ナーンク
n [n]
ナ行音。またはンの音。

 Kruuz クルーツ
k [k]
カ行音。

 Haar ハール
h [x]
喉で強く摩擦するハ行音。

 Uurk ウールク
' [ʔ]
声門閉鎖音。母音で始まる音節を示す。

⁴ International Phonetic Alphabet (国際音声記号)

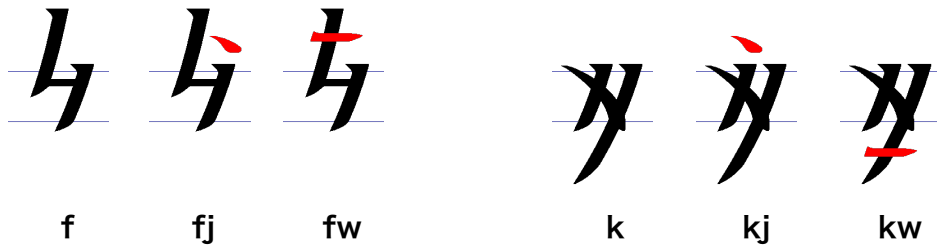
⁵ 文字名は「獣人の L」の意。専らリアニーセン語 (Lianiis Min) からの借用語に用いられるため。

⁶ 話者によってはサ行音 [s] で発音される。外来語の s にはふつうこの子音を充てる。

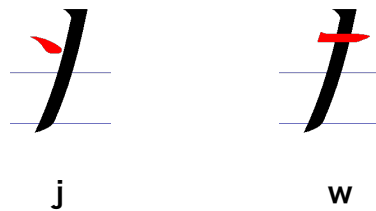
3. 半母音と補助記号

フラールット語には二種類の半母音 (glide) があり、母音の前にのみ現れる。表記の上では直前の子音字母に**補助記号**として付加することで示され、省略することはできない。

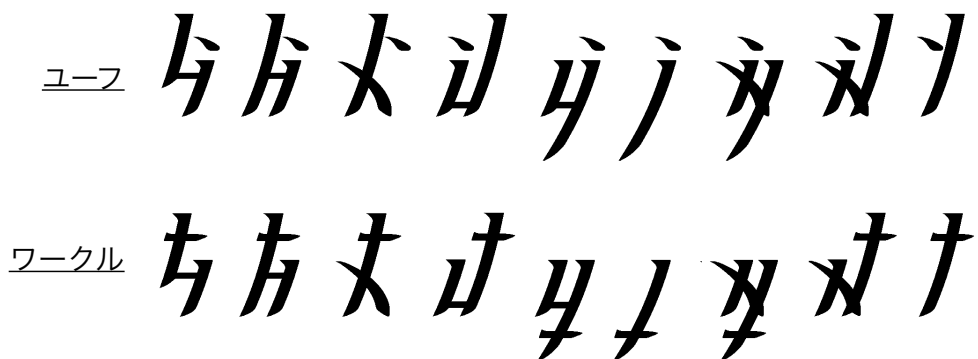
ドット (点) のような**ユーフ** (Juuf) は半母音 **j** [j] (ヤ行音・口蓋化⁷) を、ストローク (横線) のような**ワークル** (Waakr) は半母音 **w** [w] (ワ行音・唇音化⁸) をそれぞれ表す。



また、j や w から始まる語や音節の場合、つまり前に記号を付加すべき子音字母が無いときは、ワークルの文字 (声門閉鎖音) を記号の土台として用いる。



補助記号を付加する位置を以下に示す。



外来語の場合、**fw** の綴りを用いて p の音を、**nw** の綴りを用いて m の音をそれぞれ表す場合もある。

⁷ 日本語では拗音ともいう。j によって「か」が「きゃ」に変化すること。

⁸ 古い日本語における「か」と「くわ」の区別に近い。

4. 母音

フラールリット語の母音は、基本的に **a i u** の3種類のみを区別するシンプルな体系を持つ。ただし、3種類それぞれに**長母音** (long vowel) が存在するほか、3つの**二重母音** (diphthong) も用いられる。

基本母音 (短母音) の字母を以下に示す。



a [a]
ア



i [i] または **e** [e]
イ (エ)



u [u] または **o** [o]
ウ (オ)

長母音 は次のように短母音の字母を重ねた合字で表される。



aa [a:]
アー



ii [i:] または **ee** [e:]
イー (エー)



uu [u:] または **oo** [o:]
ウー (オー)

i および **u** の母音はそれぞれ**異音**⁹ (allophone) を持つ。変化の規則は以下の2つである。

- ・半母音 **j** の直後に母音 **i** (ii) が続く場合、母音が **e** (ee) に変化する。
- ・半母音 **w** の直後に母音 **u** (uu) が続く場合、母音は **o** (oo) に変化する。

J + I = JE (JI ではない) **W + UU = WOO** (WUU ではない)

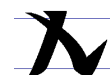
二重母音 はそれぞれ1音節で発音される。これらも合字が元になっている。



ai [aj]
アイ



ui [uj]
ウイ



au [au]
アウ

⁹ 母音が違う音声に変化するが、フラールリット語話者にとっては同一の音素として扱われる。

5. 実例

Two examples of Habi characters. The first is 'fraar' and the second is 'kruuz'. Both are written in a stylized, cursive font with sharp curves and pointed ends.

fraar
「翼」

kruuz
「足」

Two examples of Habi characters. The first is 'rwoohr' and the second is 'raakut'. Both are written in a stylized, cursive font with sharp curves and pointed ends.

rwoohr raakut
「森の狼」

Two examples of Habi characters. The first is 'Kwa fwarat' and the second is 'Fiikrituir?'. Both are written in a stylized, cursive font with sharp curves and pointed ends.

Kwa fwarat Fiikrituir?
「あなたはリアニーセン語を話しますか？」

Two examples of Habi characters. The first is 'Kju fwarak'. Both are written in a stylized, cursive font with sharp curves and pointed ends.

Kju fwarak.
「私は話しません」